

2 経管栄養関係の事例 ～注入量(溶解量)について2～

発生時の状況と経過

注入の準備の際に、ラコール 250 ml + 白湯 50 ml 作るところを、ラコール 350 ml + 白湯 50 ml 作ってしまう。(ラコール 200 ml × 2パックあり、1パックは 50 ml を使用し 150ml を破棄するはずだったが、誤って 150ml を使用し、50ml 破棄したことに気付く。)

発生時の対応と処置

担任より保護者に連絡したが繋がらず、ラコールと白湯の割合を考え(正常割合、ラコール 5:白湯 1、間違いは、ラコール 7:白湯 1)、白湯を 20 ml 加え、割合を 5:1 としてトータル 300 ml に減量して注入開始する。

その後保護者と連絡が取れたので現状を伝え、割合と量があっていれば良いと了解を得た。

考えられる原因や背景

新型コロナウイルス感染症の影響で、医療的ケア対象者が1日授業になったのが約4か月ぶりであり、通常であればかけている次の業務開始のためのタイマーのセットをしていなかったため、昼の注入用のラコールの準備を忘れており、慌てて準備をした。

準備をする際に、個別のメニュー票(一人ひとりの注入物の内容が記載してあるもの)をしっかりと確認できていなかったため、量を間違えた。

再発防止に向けた対策・改善点

業務内容をしっかり把握しておく。

慌てていたとしても、確認業務は怠らない。

ポイント!

- 処置や準備はダブルチェックが基本です。指示の内容と操作は確認が済むまで行わないようにしましょう。
- 急いでいてもダブルチェックを省略しないようにしましょう。